令和6年度　余目小学校だより

みんなの学校

あまるめ

令和6年7月19日
No.6
校長　渡邉　かほる

1学期終了「子供に任せて、失敗を奨励する」

～　子供自身が自ら、考え、選び、決断する力を発揮できる環境～

1学期が終了します。子供たちにとっての1学期は、どうだったのでしょうか？改めて、問い直しています。

「先生の言うとおりにできた。できなかった。」
「忘れ物をした。しなかった。」
「宿題をやってきた。やってこなかった。」
「話を聞いた。聞かなかった。」
「元気に挨拶した。元気にできなかった。」　など

「できた。できなかった」という表面的なことだけで、判断・評価するのは危険です。大人の思い通り、期待通りに振舞う子供だけがよい子なのでしょうか。

指示されたことだけを忠実にこなす時代は終わりました。

予測困難な時代　「自ら考え、選び、決断する力」のように、主体的に生きる力が必要

そのために必要な大人の姿　「子供に任せる」「失敗を奨励する」という姿が不可欠

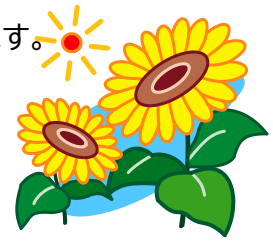
「ちゃんとさせたい」という思いで、「失敗しないようにと指示しすぎ、手伝いすぎではなかったか。」など、私達も、問い直しを繰り返しています。「子供に任せて、失敗を奨励する」大人を目指し、一緒に、アップデートしていきましょう。

夏休み　～長い休みにしかできないことを思う存分～

「子供自身が自ら考え、選び、決断する力を発揮」

ある子から「校長先生、宿題をなくしてください。」という訴えがあり、「夏休みは、自由に生活したい。」という気持ちが痛いほど伝わってきました。「宿題」って、いったい何なのでしょう。

○「やらなければいけないもの」「出されたからやるもの」
　・指示されたから、やるのが当たり前という考えであり思考停止状態です。
○「ゲームをやらないために、宿題をたくさん出してほしい。」という要望
　・何のためにという目的がずれています。
○一斉に出されたみんな同じ宿題は「簡単すぎる。ちょうどいい。難しい」と人それぞれ
　・必ずしも一人一人に合っている課題とは、言えません。

宿題だけにかかわらず、夏休みは、「子ども自身が考え、選び、決断する力」を発揮することを大事にして、言葉かけや環境づくりに力を注いでいただければ幸いです。子供のためを思っているということでも、強すぎる大人の思いや強すぎる言動には気を付けたいものです。（添付資料）長い休みにしかできないことを思う存分体験することを願っています。

夏休み明けに、期待する姿
うまくいったことや、うまくいかなかったことを含めて、自分にとって、どんな夏休みだったか、2学期にどう生かすかを、自分から自分らしく自分の言葉で話をする姿